

令和元年 火災と救急救助の概要

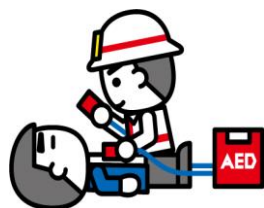
消防本部予防課予防G (☎ 0595-82-9492)

消防本部消防総務課消防救急G (☎ 0595-82-9496)

火災 24 件

救急 2,325 件

救助 34 件



●火災の概要 【消防本部予防課予防グループ】

令和元年中の火災件数は24件で、前年に比べて3件減少しました。また、火災による負傷者は6人でした。

項目別では、建物火災が6件で前年に比べて1件増加し、6件全て住宅火災でした。

主な出火原因は、たき火などの火の不始末や放火の疑いによるものでした。

火を取り扱う際は、消火器等を準備しその場を離れない。また、日頃から家の周りに燃えやすい物を置かないよう、心がけましょう。

項 目		平成30年	令和元年	前年比
火災件数	建物火災	5	6	+1
	林野火災	0	1	+1
	車両火災	7	6	-1
	その他火災	15	11	-4
	合 計	27	24	-3
死傷者	死者(人)	0	0	±0
	負傷者(人)	1	6	+5

※その他火災とは、建物、林野、車両に該当しない火災です。(例：空地の枯草や田畑の火災など)

主な出火原因	平成30年	令和元年
	たき火、枯草焼き	たき火、枯草焼き
	火の不始末	放火の疑い
	電気配線等	ライター

●救急救助の概要 【消防本部消防総務課消防救急グループ】

■救 急

・事故種別出動件数、搬送人員（表 1）

令和元年中の出動件数は 2,325 件、搬送人員は 2,197 人で、前年と比べて出動件数は 41 件、搬送人員は 30 人増加しました。

1 日の平均出動件数は 6.4 件で、平均搬送人員は 6.0 人となっています。

事故種別では、急病によるものが最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順となっています。

（表 1）

事故種別		年 別		前年比
		平成 30 年	令和元年	
火 災	出動件数	6	8	+2
	搬送人員	0	5	+5
自然災害	出動件数	0	1	+1
	搬送人員	0	1	+1
水 難	出動件数	1	1	±0
	搬送人員	1	1	±0
交通事故	出動件数	247	226	-21
	搬送人員	260	240	-20
労働災害	出動件数	45	27	-18
	搬送人員	43	27	-16
運動競技	出動件数	11	5	-6
	搬送人員	11	5	-6
一般負傷	出動件数	369	381	+12
	搬送人員	350	360	+10
加 害	出動件数	3	7	+4
	搬送人員	2	8	+6
自損行為	出動件数	24	22	-2
	搬送人員	16	15	-1
急 病	出動件数	1,458	1,532	+74
	搬送人員	1,366	1,423	+57
その他	出動件数	120	115	-5
	搬送人員	118	112	-6
合 計	出動件数	2,284	2,325	+41
	搬送人員	2,167	2,197	+30

・被搬送者の傷病程度別比率（表 2）

令和元年中の被搬送者 2,197 人における傷病程度の比率は、軽症が 1,161 人で 52.8%、中等症が 839 人で 38.2%、重症が 146 人で 6.6%、死亡・その他が 51 人で 2.3%となっています。前年と比べて軽症の占める比率が 0.5 ポイント減少しました。

（表 2）

傷病程度		年 別	平成 30 年	令和元年
軽 症	搬送人員		1,155	1,161
	比 率		53.3%	52.8%
中等症	搬送人員		816	839
	比 率		37.7%	38.2%
重 症	搬送人員		152	146
	比 率		7.0%	6.6%
死亡・その他	搬送人員		44	51
	比 率		2.0%	2.3%
合 計	搬送人員		2,167	2,197

※ 軽 症：入院を必要としないもの

中等症：入院を必要とするもので、重症に至らないもの

重 症：三週間以上の入院加療を必要とするもの

死 亡：初診時において死亡が確認されたもの

その他：医師の診断がないものなど

・被搬送者の年齢区分別比率（表 3）

令和元年中の被搬送者における年齢区分別比率は、高齢者が 1,285 人で 58.5%、成人が 688 人で 31.3%、少年が 94 人で 4.3%、乳幼児が 128 人で 5.8%、新生児が 2 人で 0.1%となっています。

（表 3）

年齢区分		年 別	平成 30 年	令和元年
高齢者 65 歳以上の者	搬送人員		1,227	1,285
	比 率		56.6%	58.5%
成 人 18 歳以上 65 歳未満の者	搬送人員		740	688
	比 率		34.1%	31.3%
少 年 7 歳以上 18 歳未満の者	搬送人員		69	94
	比 率		3.2%	4.3%
乳幼児 生後 28 日以上 7 歳未満の者	搬送人員		131	128
	比 率		6.1%	5.8%
新生児 生後 28 日未満の者	搬送人員		0	2
	比 率		0%	0.1%
合 計	搬送人員		2,167	2,197

・医療機関への市別搬送比率（表 4）

令和元年中の市別医療機関における搬送比率は、市内医療機関への収容率が 39.0%で、市外医療機関への搬送が 61.0%となっています。

（表 4）

市 別		年 別	平成 30 年	令和元年
亀山市	搬送人員		939	857
	比 率		43.3%	39.0%
鈴鹿市	搬送人員		968	1,044
	比 率		44.7%	47.5%
津 市	搬送人員		155	167
	比 率		7.1%	7.6%
四日市市	搬送人員		90	110
	比 率		4.2%	5.0%
その他	搬送人員		15	19
	比 率		0.7%	0.9%
合 計	搬送人員		2,167	2,197

・現場到着・病院収容までの平均所要時間（表 5）

令和元年中の現場到着までの平均所要時間は、8.6分で前年と比べて0.2分延伸しました。病院収容までの平均所要時間は、42.7分で前年と比べて0.5分延伸しました。

（表 5）

所要時間	年 別	平成 30 年	令和元年	前年比
現場到着（分）		8.4	8.6	+0.2
病院収容（分）		42.2	42.7	+0.5

■救急車の適正利用と救急医療情報システムの利用

救急車の適正利用については、広報「かめやま」や救急講習会などを通じて、市民の理解と協力をお願いしていますが、依然として明らかに軽症と思われる方、タクシー代わりの出動要請など緊急性の低い事例がみられます。

救急車を呼ぶほどではないが、すぐに受診を希望される場合は、下記の「救急医療情報システム」を利用してください。

《救急医療情報システム》

パソコン **URL** <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

携帯電話 **URL** <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/k/>

自動案内 ☎0800-100-1199（通話料無料・ファックスでも受信可能）

医療情報センター（対人案内） ☎059-229-1199

※受診の際は、必ず紹介された医療機関に事前確認してください。

※救急車を呼ぶべき症状について詳しくは、市消防本部のホームページをご覧ください。

（**URL** <http://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/index.html>）

■救 助

令和元年中の救助件数は 34 件で、前年に比べて 4 件増加しました。交通事故に伴う救助出動が最多となっています。

災害はいつ起こるか分かりません。日頃から災害に対して備えましょう。

救助の概要		平成 30 年	令和元年	前年比
事故種別件数	交通事故	25	19	-6
	水難事故	1	1	±0
	建物等による事故	0	6	+6
	風水害等 自然災害事故	0	0	±0
	機械による事故	1	0	-1
	その他の事故	3	8	+5
	合計	30	34	+4

※その他の事故とは、交通事故、水難事故などに該当しない事故です。

■災害情報案内の利用

火災などの災害情報を自動音声案内や市消防本部ホームページ（軽易なものは除く）に掲載していますので、ご活用ください。

《自動音声案内》

☎82-9555

《市消防本部ホームページ》

URL<http://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/>